



木もれびの森のつる植物 (4)

今年木もれびの森の活動地・A地区ではヤマユリ・E地区ではキツネノカミソリが多く咲いているのを見る事が出来、木漏れ日のシャワーを浴びて美しく輝いていました。こんなにたくさん咲いたのも珍しいのではないのでしょうか。今回はつる植物の4回目です。



ノブドウ(花&果実)



ヤブガラシ(花&果実)



ガガイモ(花&果実)



オニドコロ(花&果実)

ノブドウ(野葡萄) ブドウ科 雌雄同株 つる性の落葉低木 花期(7~8月)

巻きひげで巻きつきながら生長する。果実は9月~10月頃、球形で黒紫色に熟します。花はつるの所々に葉と向き合わせに花の枝が伸びてヤブガラシと似た花を咲かせる。葉は互生し浅い切れ込みがあるもの、深い切れ込みがあるもの(キレハノブドウ)までいろいろです。

ヤブガラシ(藪枯らし) 別名-ピンボウカズラ(貧乏蔓) ブドウ科 多年草 花期(7~8月)

つるは葉に対生する巻きひげで他のものに巻きつき生長する。葉は5小葉からなり小葉のふちには浅い鋸歯があり、頂小葉も長楕円形で鋸歯がある。花は緑色で目立たないが中央のオレンジ色の花がアクセントになっている。繁殖力が旺盛なつる植物で、藪を覆って枯らしてしまうことからこの名がある。

ガガイモ ガガイモ科 つる性の多年草 花期-8月

葉はハート形で対生、表面は無毛でやや光沢がある。葉や茎の切り口から白い汁が出る。花は夏に葉脈の脇から花柄を出して紫色で5裂した花をつける。花の内面に毛が密生する。果実は大きく長さ10センチくらい、中にへん平な種子がびっしり並ぶ。種子には長い毛があって、熟すと2つに割れて、長い白毛を持った種子が風に吹かれて飛んでいきます。

オニドコロ(鬼野老) 別名-トコロ ヤマイモ科 多年生のつる草 花期(7~9月)

葉は互生、ハート形で先は長く尖る。雌雄別株、雄株の雄花の集団「雄花序」は直立し、雌株の雌花の集団「雌花序」は下垂する。一見ヤマノイモに似ているが、芋は食べられない。オニドコロのつるは右巻きで葉を透かしてみても側脈が見えない。ヤマノイモのつるは左巻きで葉を透かしてみると側脈が透けて見える。(田崎)

木もれびの森の野鳥たち(22)

<冬鳥到来の季節がやって来た!>

森は冬支度の始まり。木々は紅葉し、葉を落とし始め、虫たちの活動も目につくことが少なくなりました。その分、野鳥たちにとっては食べ物メニューが限定され、熟した木の実や草の実が、大事な食料源となってきます。

この間、9月下旬頃からモズが姿を見せ、「キーキーキィ」と高鳴きを繰り返し、なわばり宣言をしていました。なかなか姿を現さなかったキツツキのアオゲラ親子4羽も、イヌシデひろば周辺で木をつついて、元気でした。

10月頃までカラ類の大きな混群(シジュウカラ・メジロ・ヤマガラ・コゲラ)に混じって、旅の途中の夏鳥のサンコウチョウ・キビタキ・センダイムシクイ・コサメビタキたちが木々の繁るなかで盛んに虫を捕って

いました。もう南の国へ旅立ったことでしょう。 秋も深まり、木もれびの森に越冬のためにやってくる冬鳥たちの到来が待たれる季節です。昨年は、ジョウビタキが10月29日、ツグミが11月4日頃やってきています。数がとても少なかつたイカル・シメ・アオジたちは今年はどうでしょうか。大きな気候変動や天候の不順は森の植物にとっても大きな影響を受けたことでしょう。生き物たちが、つながり合って生きていける穏やかな環境であってほしいと願います。(瀬尾)



イカル

木もれびの樹木(22)

11月になると北の国や高い山からの紅葉の見ごろの便りが里にも聞かれるようになってきます。

木もれびの森の樹木も色づきはじめ、まもなく紅葉の美しい景観を見ることができますが、紅葉が始まる前からドングリが成熟していくのが観察されます。木もれびの森のコナラ、クヌギにもドングリが目立つようになってきました。

ドングリは漢字で「団栗」と書きますが、団は丸いという意味で丸い栗という説や、韓国語で丸いものを「ドングルダ」といい、ドングリになったという説があるようです。韓国では今でもいろいろのどんぐり料理があり、また、健康食品として市場に流通しているそうです。

ドングリはブナ科の果実(堅果)の総称ですが、落葉樹と常緑樹があり、日本に自生する木は20種類ほどで、その主な樹種は次のとおりです。



コナラ



クヌギ



ブナ

ブナ科コナラ属

落葉樹----アベマキ、カシワ、クヌギ、コナラ、ミズナラ、ブナ等

常緑樹----アカガシ、アラカシ、イチイガシ、ウバメガシ、ウラジロガシ、オキナワウラジロガシ(日本で最大のドングリをつける)、シラカシ等



シラカシ

アラカシ

ブナ科シイノキ属

常緑樹----スダジイ、ツブラジイ



スダジイ



ツブラジイ

ブナ科マテバシイ属

常緑樹----シリブカガシ、マテバシイ

なお、クリはドングリとは呼びません。

マテバシイ→



ドングリには春、花が咲いて受粉して秋に実になるものと、翌年の秋に実になるものがあります。

1年成(一年で実るもの)----カシワ、ミズナラ、コナラ、アラカシ、イチイガシ、ブナ、イヌブナ等

2年成(二年で実るもの)----アベマキ、クヌギ、スダジイ、マテバシイ、シリブカガシ、ウバメガシ、ウラジロガシ、ツブラジイ、アカガシ、オキナワウラジロガシ等

ドングリは渋みが強く、一般に人にはそのまま食用には適しません。スダジイやツブラジイなどは渋みがなくそのまま食べられます。また、多くのデンプンを蓄えることから、熊、リス類、ネズミ類の哺乳類にとって秋の重要な食料であり、ドングリの出来不出来が生存に大きな影響をもたらします。これまでもドングリが不作の年にはツキノワクマが人里に出没した事で話題になったことがあります。

人間にとっても縄文時代から渋抜きをして食用にしていたと考えられています。現在でもミズナラやカシワ類のドングリを北海道、東北地方、長野県や熊本県等の日本各地で渋抜きしていろいろな加工食品を作って食しています。(林)

* 本号は原稿が多めでしたので文字を小さくしました。読みづらくもかもしれませんがご容赦下さい(編集者)。